花ちるけと

八

哥を名せまるし

Murasaki Shikibu

[Kyoto, 1650]

[v. 11]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 11
copy 1
Asian
Japan
Cage

THE LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

8

源氏廿四才の夜のすゑ

人しれぬ御心ぴからの抽おもはしさは、いひとるさ
ことなすめれどうくおほゆるの世まひけてさへぎづ
らはしうおぼしえぐるくことのこまされば、
もの心ぼそく世中なべていとりしう思しなるる
なまさすがるることおほゆり。簾景殿（れいけいでん）とさえ
しいこやこちもおはせず。院かくれさせまてのち。
いよく衰なる御何りさ夜をこぐこれ（源）大将殿の御
こころまもてかくされてしぐし給なるべし。
御おとうとの三（花ちる里）の君（源ノ）うちはらりまて、ゆるく御の
めさ給しなすぐり。例の御こころなれば、さすがり
はしれもはて給ちぞ。ゆぎとまてるし給ちぬま。

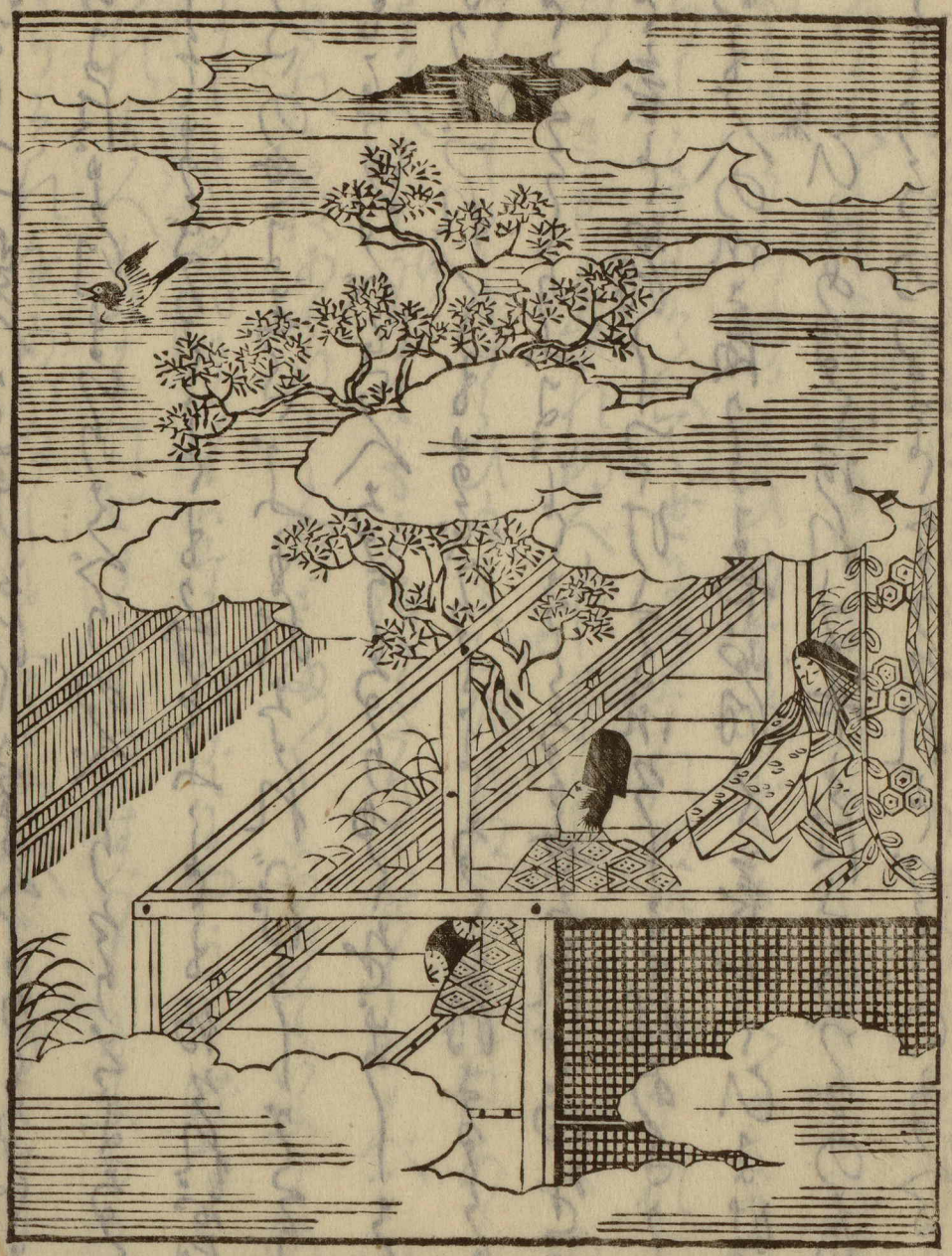
ひとれ此ころをのゝ川くしたてまべかめる後も
此此のころことなく、おぼしこゞろく世のあはれ乃
くさくいまは、おもひ出たまふに、志のびがたくて、
さこゞれの元めづらしうそれたる雲(くも)まに、ひたり給
たまはぐらりの此よそひなくうちやつして此前(ごぜん)
などもことまるく志のびたまへりなり川の御ど
おもするに、ぢぐやかるる家(いへ)の、まごちなどよし
ぐめるに、よくなることゝ、あ川まに志しべて、かさ
あれせまぎはくしくひきなる寸なり此(係)こと
とまりてかどぢろる所なれバすこしさし出
てゝいれまへバおほきなるうつらの木のをひかぜに

まつりのころおぼしいでられて。そこにいたるなく
けもひおりしき。こゞひとめこ給しやどり也と。
おもひいでおふまこゞなるらず。ほどへまけるをおぼ
めしくやとひこましかれど。すきがてまやすら
ひ給おりしもほとゝぎすなきてつたる。もま
ほしきこゝしがほなれば。車をしゝへさせまて。例
のこれこゝをいれまふ
どちかへりえぞ思ぐれぬ時鳥ほのうたら
ひし宿のかきねまたん夏とおぼしき屋乃。
雨のつまま人ぐゐたり。さきぐもまたしかな
こゝ思なりかれど。こはげくりかしきとりて。

れせうそこ四方也。けうやかるかそしさどもあまる
して。おぼめくなるべし
はとくぎ浪うたふ心はそれなるがらあるお
ぼつるかさみぶれの雲ごとさしまさどうとこれぞ。
（惟光）らしく気へしうきれもとていづる代。（女）人志れぬ心
まはゆうも何されまも志そり。（地）さもつくむべき
ことぞうしことそりまもあれバさすがるり。（源ん）かや
うのきはまいくしの五箇（せち）こそ（大式ノ女ニ）らうしげな
ましまやとまぐおぼしいぐいかるまつけ
てもれころのいと海なくどし月をへてもを
なしげるり。（地）なす代うやうりうしあるも

のなさけもとぐしこ海もぬましもなりく
あまるの人のもれなもひぐさなり。さてかれは
いのところも（花ちる）おぼし（涼ん）やつとけるもしるく。人めな
くしげかまておもすかみ猪をこ給もいと哀なり。
まげ女（羅糸）れのれかるまてむかしのれもれがたりな
どこそしこまふる。夜（地）ふ事つりかり。女日志
月さしいげるほどまいとぐ来ぐるさかげども。
こぐらうえしけるりてちかき樓（しちぐな）のかほりなけか
しくまほひて。女（羅）れのれけもひとびまこれど。
あくまでよういあり。あてまらうこげなり。す（涼ん）
ぐれてもれやかるれ見しこそなりしかど

むつましうなつしきうたまは（院ノ）笑しうりし
もれとなど思出きてしまふまつけてもむかしの
ことうきつゝねおぼされてうちなき給ほとく
ぎすありけるうきねのまやおなすじこ思ひ
うちなく思ひとまけるまとおぼさるゝ程も
えんなりうしいかましりてうなど思のびやう
まうちずじ給
（源）うち笑のうぼなりけりこほとくぎすりか
ちる里をしのねてぞとふ



いまし（ほん）へ口をれがたうおぼしたまへらるくなぐさ
めまは・まげまつりたべりぬべかりけり・そよなく
よそまぎるくこともかずそふことも侍れ・おほ
うたの世にしたがふものなれば・むかしがたり
もきかすべき人なうなりゆくを・ましてく
いかるつれぐもまぎるくことなく・おぼさるらん
とさそしおふにいとさしなる世なれど・抱をい
と哀とおぼしつゞけたる・れそしきれあさから
ぬも・人のれさ夜からまや・おほく哀ぞくひまけり
ひとめなく訶れたるやとはたちづなのそれ
よそのきのつまとなりそれ・とづりのおへるも・

さまいへど人にはいとことなりなりとおぼし
ろんぐろ。まし（花ちるの方こ）おもてにはつぎとなくしのび
やうにうちふるまひもて。のぞこ給へるも。めつ
らしきるさへて。世にめなれぬ此さ海なれど。
けらさもにすれぬべし。（源）なるやうやとれいの
なつしくうちひもも。お（地）ぼさぬことにはあら
さるべし。（源ノ）うりにもこ給うぎりは。さしなべての
さはにはあらねどにや。さ海ぐにつけて。いふかひ
なしとおぼさるくはなられどにや。うくげなく。
けれも人もなきけとうくしてすぐしまふなり
なりそれをあいなしとおもふ人はどなりくり

うちうもうとちりの世のさだとせひなし給ま
地ありつるうきねもさやうまてありさ雨ゝつりま
しろれあくりなりなり

69038
6AP78